

(第3種郵便物認可)

・証券  
・投資  
・少額

# 少額短期保険事業の参入を視野に

## 保険で投資リスクヘッジ、個人投資家市場育成目指す

インシア・スター証券株式会社(東京都渋谷区、井本明代表取締役)は4月14日、記者発表会を行い、同社の予定している新規事業の一つとして保険商品の開発を挙げた。現在、子会社として少額短期保険会社(または金融保証会社)の設立を準備しており、早ければ2008年10月以降に

の二つを基軸に展開している。他社に先駆けて展開する新興国市場では、リスクを見極めコントロールできれば安心して高利回りの新しい投資機会を提供できる。

そのリスク回避の一手段として、個人投資家がリスクヘッジできる保険商品開発の取り組みを開始した。

インシア・スター証券のメインターゲットは個人投資家だ。若年層への投資企画の拡大や投資の新しい規性、先行性などに高い評価基準を置き、ファンド事業と、海外株式取扱事業

業証券化商品の商品性をより高めると同時に、個人投資家の安定した投資活動を支援できる市場の創造を目指す。

同社の基軸の一つとしているファンド事業では、新規事業「ファンド・パーク」構想をうちだし、最初の取り扱い商品として、モンゴル・ウランバートルの不動産を投資対象としたファンドの展開を発表した。個人投資家向けのモ



井本氏  
大や投資の規性、先行性などに高い評価基準を置き、ファンド事業と、海外株式取扱事業

「金商法の施行により購入できなくなってしまう優れた投資商品が多数存在する。ファンド・パークでは、これらの商品の組成・販売・請負を行い、ユニークかつ魅力的な商品設計を提案し、今後3年をめぐり、500億円のファンド総額と3年後の株式公開を目指す」と(井本氏)としている。

さらに海外株式取扱事業の新しい商品として、同社ではドバイ株の取り扱い事業を進めている。4月6日、同社はUAEドバイのマック・シャラフ証券と業務提携を締結。これにより同社はマック・シャラフ証券の日本窓口

### 個人向けモンゴルファンドとドバイ株

日本初

モンゴルファンドに続いて、太陽光発電ファンド、銀座ファンド、レストランド、インフラ、レジャーホテルファンド、カンボジアファンド、ベトナムファンド、中国ファンドを予定対象ファンドとし、い

ずれも8・4%ほどの利回りを目標に掲げている。

「金商法の施行により購入できなくなってしまう優れた投資商品が多数存在する。ファンド・パークでは、これらの商品の組成・販売・請負を行い、ユニークかつ魅力的な商品設計を提案し、今後3年をめぐり、500億円のファンド総額と3年後の株式公開を目指す」と(井本氏)としている。

として、日本国内の個人投資家向けに、UAEのドバイ証券取引所とアラビヤ証券取引所の上場銘柄の株式取引を、日本で行うことができるビジネスモデルの構築を共同で進めている。

ドバイの株式時価総額は、03年末から04年末にかけて145%、04年末から05年末には230%の上昇を見せており、今後も株式市場の拡大が見込まれている。

同社では、これまで国内で扱われなかった新興国の株の取り扱いなどを進めており、投資家のニーズを起点とし、適切かつスピーディーな商品の開発・提供により、既存の国内証券会社と連携した新たな投資環境の創造を目指す。国内にいながら

個人投資家向けのドバイ株を売買できるのも、日本で初めての試みという。

代表取締役の井本氏は、商社マンとして中東でキャリアを重ねてきた人物。1999年に独立し、中近東市場やオイル関連ベンチャービジネスに携わる。2004年に投資顧問企業に常務取締役として就任し、ホテルファンドの事業証券化商品「HOPESERIES」を販売。6000人以上の出資者から1050万円、合計122億円の募集を2年半で達成している。

取締役には、スタンダード&アースでストラクチャード・ファイナンス上層アナリスト、外資系投資銀行などで証券化

アレンジメントに携わってきた内山能成氏、大手外資系証券会社で投資銀行向けの法人営業にマネージャーとして携わってきた山崎貴之氏が並ぶ。同社は、08年2月にハート証券株式会社から社名変更した。07年12月クローバル・ファイナンス・サポーター(株)(東京都渋谷区、品野修三代表取締役、以下GFS)がハート証券株式を100%取得・子会社化し、社名と経営陣を変更したことに由来のもの。GFSが持つ事業証券化のノウハウを生かしながら、従来の証券業界の慣習にとらわれない、クリエイティブで顧客に安心と喜びを提供する新商品やサービスを目指すとしている。